

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる文化

第127回

芭蕉句碑 子日庵一草の時雨塚

長勝寺庫裡に向う中雀門手前の繁みに苔むした石ぶみがあつて、「たび人と我名よばれむはつしぐれ ばせを」と刻まれています。

この句は、俳人松尾芭蕉が貞享四年（一六八七年）奥の細道の長

旅に出るにあたつて深川芭蕉庵の送別の席で詠んだという。空はしぐれ模様、風に舞う木の葉のように行き先定めのない旅先ぎで「もし、旅のお方…」とでも呼ばれる身になるであろうか、と。そして、この句碑の建立者は、碑陰に示されている通り奥州南部（現在の岩手県北上市）出身の也鼻庵一草（草）という江戸時代の俳人です。ことのほか芭蕉の崇敬者だった一草は、俳聖芭蕉百年忌を期して翁の句碑をつくることを志し、

命日にあたる寛政元年（一七八九年）十月十二日にこれを建てました。子日庵とも称した一草は長勝寺で得度出家し、はからずも地元潮来の排土某から秘蔵の蕉翁自筆



芭蕉句碑 子日庵一草の時雨塚（長勝寺境内）

という「旅人と…」の短冊を託されたことから境内にそれを埋め込んで時雨塚とし、芭蕉百年忌も営まれたとされます。（子日庵一草編潮来集序文から）
尚、寛政五年には、ひろく六七九句を集めた句集「潮来集」を刊行。以後は時雨坊を名乗り、各地を行脚して蕉風の高揚につとめたとされています。

潮来市文化財保護審議会委員

谷 玄明

潮来市の誇れる自然

第36回

追跡！巨大ナマズ —湖沼の外来生物問題の最前線—

茨城大学水圏センター（潮来市大生）は、全国の大学生たちが湖の環境問題について総合的に学べる施設として、文部科学省に認定されている国内唯一の臨湖実験所です。夏休み中には、霞ヶ浦・北浦をフィールドに学ぶ5つの公開実習に学生たちが集まりました。

8月17・19日の公開臨湖実習「追跡！巨大ナマズ—湖沼の外来生物問題の最前線—」には、北海道大、岩手大、東北大、東洋大、帝京科学大、山梨大、近畿大、三重大の12名が参加しました。この実習の教材は、北浦にたくさん生息している、北アメリカ原産の外来ナマズ（チャネルキャットフィッシュ）です。まず、捕獲調査や食性調査を通して外来ナマズの脅威を体感してもらい、次いで、湖岸でさまざまな方法で

魚類調査を行い、希少な魚たちやワカサギ・シラウオ・エビ類などの水産資源がまだそれなりに生息していることを確認しました。最後に、二つ



北浦湖岸での在来魚の調査



実習で採れたチャネルキャットフィッシュ

の班に分かれて考案した駆除方法を試して、班別対抗で駆除数を競い合いました。外来ナマズは多数捕獲され、対策についての議論も大いに盛り上がりました。
参加学生からは、「北浦には絶滅危惧種を含む在来魚がまだ残っていてうらやましい、豊かな自然を大切に守ってほしい」、「外来ナマズ問題を一般の人たちに知ってもらうことは急務」、「市民の方々と釣り大会を開催し、地域を盛り立てていけばよいのでは」など、様々な感想がありました。今年も、学生たちが湖の環境や地域のことを考える良い機会となったようです。

茨城大学広域水圏環境
科学教育研究センター

加納 光樹

